

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第3号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第3号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R8 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R8 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R8 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R8 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R8 (hr)	平年比 (%)
5月	1	17.6	16.7	-0.9	23.8	21.8	-2.0	12.0	11.7	-0.3	27.2	31.0	114.0	30.9	42.8	138.5
	2	18.3	18.5	0.2	24.5	25.3	0.8	12.8	11.9	-0.9	29.3	0.0	0.0	30.5	51.3	168.2
	3	18.8	20.2	1.4	25.0	28.0	3.0	13.3	13.8	0.5	29.9	0.0	0.0	30.5	53.6	175.7
	4	19.5	23.6	4.1	25.7	32.2	6.5	14.0	16.0	2.0	25.1	0.0	0.0	30.7	53.5	174.3
	5	20.2	23.2	3.0	26.5	28.5	2.0	14.7	19.0	4.3	19.6	3.0	15.3	30.6	26.4	86.3
	6	20.9	24.1	3.2	27.1	29.2	2.1	15.6	19.4	3.8	22.6	24.0	106.2	34.5	37.1	107.5

5月5半旬以降の平均気温は平年より3.0°C以上高い。最高気温は2.0°C以上高く、最低気温は4.0°C程高くなった。日照時間は5半旬で平年より低くなったものの、6半旬では、平年比107%となった。降雨量は5半期まで降雨が少なかったが、6半旬で平年同等となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月1日）

品種	項目	年 次	草 丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数L	葉色		概 要	
						SPAD	カラースケール		
							単葉		群落
コシヒカリ	本 年 値	5 8 . 4	7 1 2	1 1 . 2	4 2 . 8	4 . 5 5	4 . 0 0	・草丈は平年並み、茎数は多い。 (1株あたり茎数43本程度) ・主稈出葉数は、平年並み。 ・葉色は平年より濃い。	
	前 年 値	5 7 . 9	6 5 5	1 0 . 7	4 6 . 2				
	平 年 値	5 5 . 4	6 2 5	1 1 . 0	4 1 . 3				
	平年比(差)	1 0 5	1 1 4	0 . 2	1 . 5				

※ 平年値は、H28～R7年度の平均値

※ 移植日4月6日、栽植密度16.5株/m²、1株セット本数4本

(管内の生育状況)

- 現在、幼穂形成期（幼穂長7mm～10mm）を迎えている。
中干しが終了し、間断灌水の時期となっている。

3. 今後の管理（極早生コシヒカリ）

(1) 水管理

- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行くと根を傷める場合もあるので、引き続き間断灌水を行う。

- ・現在、水が溜まっている圃場では、土壌をある程度固めることが最優先である。
中干し後も土壌がぬかるむほど柔らかい圃場では間断灌水時に落水期間を長くとりながら、土壌を固めていく。土壌の硬さは「歩いて軽く足跡が付く程度」が理想である。
- ・台風通過時は、水稻の生育ステージによって異なるが、本田移植後（活着期以降）は強風による水稻の茎葉の水分収奪や損傷を防止するため、深水管理を行う。併せて、台風通過後は、新しい水と入れ替え、こまめな間断灌水や浅水管理を行って根の機能回復に努める。

(2) 肥培管理

- 必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し表1および表2、【穂肥診断の方法】を参考に穂肥を実施する。
- 穂肥施用の目安は、幼穂長 15 mmの時（過去10年の平均より6/9前後）に施用する。
ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量は減ずる。

【表1】 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係（過去10年平均の出穂日：6/27）

過去10年平均の出穂前日数	6/1	6/4	6/7	6/9	6/12	6/15
幼穂形成始期からの日数	0日	0～3日	3～6日	6～8日	8～11日	11～14日
幼穂長 (mm)	1mm	1～3mm	8～12mm	15～20mm	25～30mm	30mm以上
草丈 (cm)	～72cm	～75cm	～78cm	～80cm	～83cm	～
穂肥の施用時期				←→		

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD値）を測る。
- ③幼穂長を測る
- ④上記①②③の測定値を「穂肥診断基準」に当てはめ、施用量を確認する。
- ⑤施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.7以下）」になってからである。

【表2】 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD (値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	施用量 <ゴールド有機50>
		群落	単葉				
穂肥 施用時	淡い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15kg/10a
		3.0～3.3	3.5～3.8	34.0～36.0	5	78まで	
	標準	3.3～3.7	3.8～4.2	36.0～39.5	15	80まで	10kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	—	80以上	施用しない！

例) 穂肥施用時期の葉色 (SPAD) が 36.0～39.5、草丈が 80cm 以下であれば、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

※七タコシヒカ리는、佐賀県特別栽培農産物表示制度に応じた栽培方法を行っていますので、農薬及び化学肥料のカウント数を超えないように注意する。

(3) 病害虫防除

○情報田病害虫情報 (6/1 調べ)

- ・葉いもちの発生状況：0 株/50 株 (発生なし)
- ・紋枯れ病の発生状況：0 株/50 株 (発生なし)

① いもち病

- ・補植用の『置き苗』は、いもち病の発生源になるため、すぐに除去する。

② 斑点米カメムシ

- ・斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を水稻の出穂 15 日前 (6月中旬) までに終わらせる。特に斑点米カメムシは、イネ科雑草を好むことから圃場内に発生しているヒエ等の雑草も併せて除草する。

③ 紋枯病

- ・株が大きくなるにつれて、風の通りが悪くなり、高温多湿条件になると紋枯病が発生しやすくなる。間断灌水や水深調整などで、発生に注意する。

令和8年産 作物作付期間気象図 アメダス観測値(白石)

